

陳情第158号	受理年月日	令和元年12月3日
付託委員会	教育文化委員会	
件名	埋蔵文化財センターの今後のあり方を検討する委員会の設置について	
要旨	<p>北九州市は、公共施設マネジメントの資産の有効活用や総量抑制の視点から、小倉北区にある埋蔵文化財センターを旧八幡市民会館に移転し、解体後跡地を売却しようとしている。埋蔵文化財センターの関係職員には事前に何ら説明も意見聴取もなく、市長、副市長、関係局長の三役会議で決定された安易な計画である。老朽化を理由としているが、築36年の埋蔵文化財センターは耐用年数60年の建築物で、長寿命化計画に基づき中長期的な視点で適切に改修等を行えば、移転の必要はない。</p> <p>現在の埋蔵文化財センターのすぐ近くには、長崎街道、勝山公園の万葉の庭、小倉城、太平洋戦争の遺跡、建設予定の平和資料館、松本清張記念館、文学館など、北九州市の豊かな歴史と文化に出会える場所があり、原始、古代からの歴史の語り部として、埋蔵文化財センターはこの地域の価値と魅力を発信する重要な施設である。</p> <p>また、今や埋蔵文化財センターの最重要展示物となっている城野遺跡の箱式石棺は、本来、市計画の遺跡公園において、巨大な方形周溝墓と一体で保存されることこそが最大の魅力であるにもかかわらず、埋蔵文化財センターに移築し、更に遠ざけることは、城野遺跡の遺跡公園の価値をも台なしにしてしまう。</p> <p>埋蔵文化財センター内には埋蔵文化財調査室があり、市の文化企画課や本部である公益財団法人北九州市芸術文化振興財団との日常的な連携が重要である。また、収蔵庫のうち最大規模の門司区の古城収蔵庫は現在でも遠すぎるのに、旧八幡市民会館に移転するとますます遠くなる。そうした機能性や利便性を考慮せず、移転を強行すれば、本市埋蔵文化財行政に大きな支障をきたす。</p> <p>以上のような問題点について、一切議論されていない移転決定の経緯を含め、改めて関係者、第三者等を交えた検討会を設け、埋蔵文化財セ</p>	

(続 く)

ンターが市内の遺跡の発掘調査、整理と収蔵、研究、普及啓発の拠点として現在地で36年間果たしてきた役割や意義について検証し、今後のあり方を広く議論するよう求め、下記のとおり措置していただきたい。

記

- 1 埋蔵文化財センターの今後のあり方を検討する委員会を設置すること。
- 2 1の検討委員会の報告が出るまで、埋蔵文化財センターの移転はしないこと。